

2022/2/24 (木) 19:00～20:00

## 在宅医療介護連携推進のための研修会 アンケート結果

テーマ：最期までその人らしい暮らしを支える終末期リハビリテーションの重要性

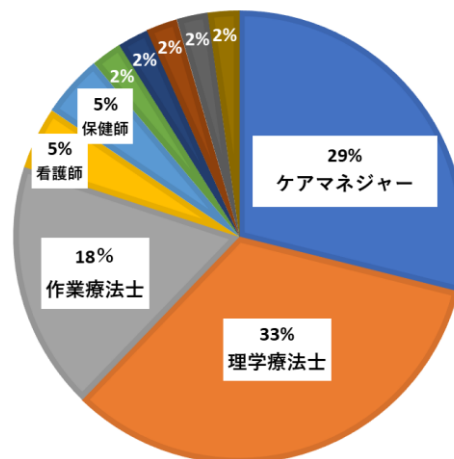
回答件数：45 件

回答率：95%

リハビリネット部会

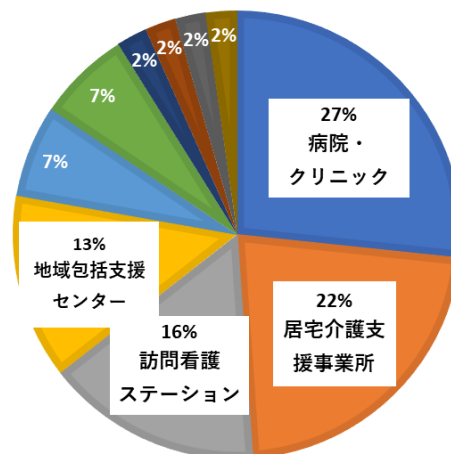
## 職種：

理学療法士	15	33.3%
ケアマネジャー	13	28.9%
作業療法士	8	17.8%
看護師	2	4.4%
保健師	2	4.4%
社会福祉士	1	2.2%
介護福祉士	1	2.2%
柔道整復師	1	2.2%
薬剤師	1	2.2%
社協職員	1	2.2%



## 所属：

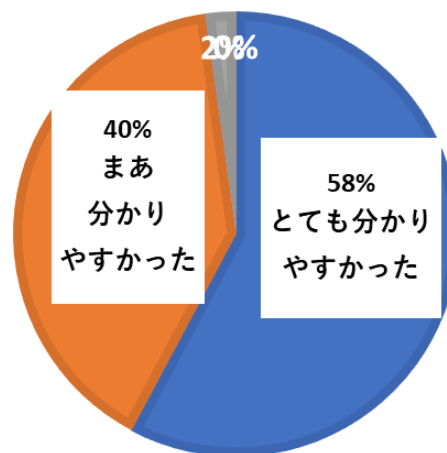
病院・クリニック	12	26.7%
居宅介護支援事業所	10	22.2%
訪問看護ステーション	7	15.6%
地域包括支援センター	6	13.3%
介護サービス事業所	3	6.7%
老人保健施設	3	6.7%
在宅医療サポートセンター	1	2.2%
社会福祉協議会	1	2.2%
在宅介護支援センター	1	2.2%
薬局	1	2.2%



在宅医療介護連携推進のための研修会 アンケート結果

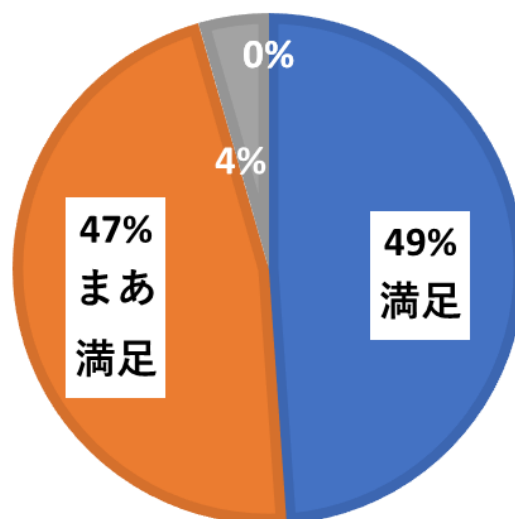
本日の研修はいかがでしたか？

とても分かりやすかった	26	57.8%
まあ分かりやすかった	18	40.0%
どちらでもない	1	2.2%
あまり分からなかった	0	0.0%
まったく分からなかった	0	0.0%



満足度：

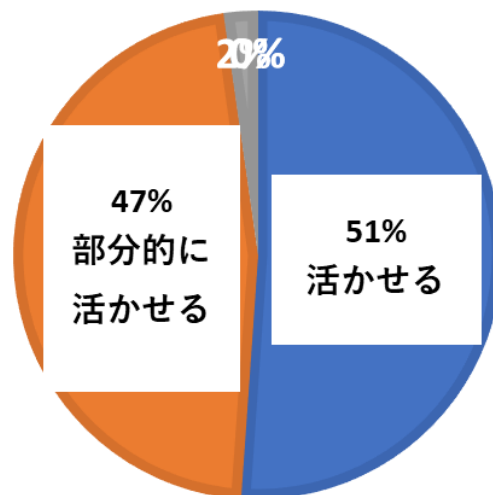
満足	22	48.9%
まあ満足	21	46.7%
どちらでもない	2	4.4%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%



## 在宅医療介護連携推進のための研修会 アンケート結果

終末期ケアにおけるご自身の今後の活動に活かすことができそうですか？

活かすことができる	23	51.1%
部分的に活かすことができる	21	46.7%
どちらともいえない	1	2.2%
あまり活かすことができない	0	0.0%
まったく活かすことができない	0	0.0%



（研修を受けて）

終末期ケアにおけるご自身の職種でどのような役割が担えると思いますか？

- ・ 本人のパーソナルな面の評価およびチームとの情報共有
- ・ トータルペインの概念をもとに関わりを持つ
- ・ 急性期時点での本人の価値観などを聴取し、他職種で包括的に共有していくこと。
- ・ ご自身の自分らしい最後を考え、どのようにそれに近づけるかチームで検討し支援する。
- ・ 心理的苦痛を取り除くための情報の統合や支援、および身体的苦痛や社会的苦痛に関する情報の提供。
- ・ 対象者が在宅生活が送れるようにサポートし多職種と情報共有担える役割を全うすること
- ・ 利用者に寄り添うこと。
- ・ 痛みのケア。本人の望むことができるように 方法環境面の提案実践
- ・ リハビリの役割を理解し、本人、家族を支えるチームを作る
- ・ 身体的苦痛 追加してやりがいの聴取や情報提供。また、見れていない精神的な面

## 在宅医療介護連携推進のための研修会 アンケート結果

- ・その人や、家族の思いをくみ取って、ケアチームのみんなで共通認識を持って関われるような役割ができたらいと思う。
  - ・患者様に寄り添い傾聴する中でその人の生きがいを引き出しチームで支援する事が役割だと感じた
  - ・ADL や運動機能の評価をしながら、どういったことが出来るのか一緒に考えること。
  - ・ACP の啓発について研修会の企画・運営
  - ・その人らしい生活を送るために理学療法士として身体機能の維持はもちろんですが、何のために機能を維持したい、あるいはもっとこうしたいなどの、真意を汲み取り、寄り添っていけるかを考えることが必要だと感じました。
  - ・本人及び家族の方の思いを聞き出した際に多職種と情報を共有する
  - ・本人の思いを聞き出すこと
  - ・その人らしく最期を生きるられることを目標とした多職種での支援
  - ・ご本人が最後にやりたいことを聴く
  - ・ご本人の願いに、地域での自分や関わってきた人との交流などがあるのであれば、それが取り戻せる場面や時間が作れるようにサポートできるといいなと思いました。
  - ・本人がどういった最期を迎えたいかに対する関わり方を検討すること
  - ・その人と対峙して、話を聞き他職種と共有すること その人ができる作業活動の提案
- その方の最期をどのように迎えるか他職種の意見をまとめる役割
- ・終末期を生きる一人の個人として尊重しながら関係を造りたいと思いました
  - ・個人としては価値観を引き出す役割、多職種連携としてはその価値観に共感しあうことであると思う。病院所属の方へのサルビー見守りネットの活用をぜひ進めてください。
  - ・その人らしい最期の時間を過ごすために OT としてできることは、その方の価値観を聞き出し、在宅メンバーに伝え、実行することだと思います。価値観を引き出す力には自分にはまだまだ足りないと思うのでそこを今後の課題とし、これからの臨床で身に付けていきたいです。
  - ・作業療法士はその人の思いを知るナラティブアプローチが大事な職種だと思うので、まずはその方について知り、思いを聞くことで、得た情報を多職種に共有する、入院中だけでなく在宅に繋げることが大事だと思います。
  - ・施設全体として情報を収集し、可能であれば実行していくこと。家ではない、施設だからこそその空間と時間を活かす。
  - ・その方が地域でどのように過ごしてきたかを、収集することはできるかと思います。その情報を、最期の時間を過ごす中で活用していただけるといいのではと思いました。また、目的を設定していくうえでも参考になることを伝えられるのではないかと思います。

## 在宅医療介護連携推進のための研修会 アンケート結果

- ・精神的苦痛やスピリチュアルペインをキャッチ、チームが同じ認識をもって支援に臨めるよう発信する
- ・精神面での支援と他職種連携、必要なタイミングでのサービス調整
- ・他職種にむけて終末期リハビリの意義を伝えられるように少し近づけたかと思えます。
- ・情報共有を行い本人の望む生き方を支援できるためのケアプランを作成していきたい
- ・情報共有、意見を聞きながらチームをまとめていく
- ・その方の大切にしている事や価値観引き出せるような関わり方をしたいと思います。
- ・情報の共有と、繋げること、本人、家族の価値観を大切に聞きとること。
- ・その人の背景を知り、傾聴と同調をし、最後までその人がどのように生きたいのかを同じ気持ちで共有した上で、良き終末を迎えられるような役割が担え则认为る。
- ・作業療法士として、精神面への関わりをはじめ、身体的苦痛や全人的苦痛等も含めトータルペインの理解をした上で、本人にとって「価値ある作業」の実践が出来ると良いかと思いました。ご本人様に作業活動に対して価値を見出してもらうためには、コミュニケーションはもちろん他職種からの情報共有というものも、作業決定やその作業をどう活かしていくのかを考える際に大切になってくるのではないかと思います。ご本人様主体となり、自分らしく最期まで過ごせるその「自分らしく」を作業療法で実践していくことが作業療法士の役割だと感じました。
- ・申し込みが遅れ、申し訳ありませんでした。安城市のACP作業部会メンバーとして参加させてもらいました。まだまだ、安城市内での看取り体制は不十分と言えますが、これだけ終末期ケアに関心のある方々がいると分かり、一緒に取り組んでいけるのではないかと感じました。私自身ができるのは、緩和ケアにおいて客観的に問題をとらえ、その人自身が最期まで自分らしく生きられるように支援することであり、誰がやる？ではなくみんなでその人のことを話し合えるような体制作りができればと思っています。本日はありがとうございました。
- ・身体機能、ADL、精神的いろんな面へアプローチ可能だと思うが、結局のところ本人がどう生きたいかを支援するために、自身の職種だけでできることには限りがあると思うので、チームとして多職種で取り組んでいきたい。
- ・関わって頂ける職種の方々と、連携を図りながら、本人の望む生き方ができる様に支えて行く
- ・明確な目標がなかったとしても、お話を聞いていくうちに精神的な支えとなれるような関係性を築くことができるようになればいいと思いました。
- ・本人や御家族の不安を取り除くために傾聴すること。終末期の方の信頼関係を築く為に患者さんの話を聞いて共感すること。死に向き合うためにイメージできるように説明をすること。患者さんがやりたいことを支援すること。などたくさんできることあると思いました。

2022/2/24（木） 19:00～20:00

## 在宅医療介護連携推進のための研修会 アンケート結果

- ・患者様や利用者様、またそのご家族の気持ちに寄り添いやすい職種だと思います。患者様、利用者様と医療チームの架け橋役になれるのではと思います。
- ・関わって頂いている関係機関の方々と、一緒に情報共有して、本人の望む生き方を支えて行く事です